

# 地域づくり県土警察常任委員会資料

(令和2年3月5日)

- 1 令和元年東日本台風(19号)を教訓とした「水防対策検討会(第3回)」の開催について

【河川課】

県土整備部

# 令和元年東日本台風（19号）を教訓とした「水防対策検討会（第3回）」の開催について

令和2年3月5日

河川課

令和元年東日本台風（19号）を教訓とした「水防対策検討会（第3回）」を開催し、中長期的な課題である大規模な治水施設の整備の取組方針及び提言（案）について議論したので、その結果について報告する。

- 1 日時：令和2年2月27日（木）午後2時から午後4時まで
- 2 場所：県庁第2庁舎第22会議室
- 3 検討会委員

区分	所属・職名・氏名	備考
学識者	鳥取大学学長顧問 裕見 吉晴 氏	座長
	岡山大学大学院環境生命科学研究科教授 前野 詩朗 氏（河川工学）	鳥取県河川委員会委員長
	鳥取大学工学研究科教授 三輪 浩 氏（河川工学）	
有識者	国土交通省中国地方整備局日野川河川事務所長 西 博之 氏	
関係 行政機関	鳥取地方気象台次長 丸山 和彦 氏	
	鳥取市都市整備部長 網田 正 氏	
	倉吉市建設部長 徳丸 宏則 氏	
	米子市都市整備部長 錦織 孝二 氏	
県	県土整備部	事務局

## 4 開催結果

中長期的な課題である大規模な治水施設の整備については、国の動向を注視しながら検討を進める必要があるが、国の検討は時間を要する見込みであるため、本県では次のとおり取組を進めていくことを確認した。

- ① 施設能力を超える豪雨に対しては、流域全体での雨水貯留が有効であり、流域貯留施設（遊水地・霞堤等）の可能性検討を、国の検討を待たずに速やかに着手する。
- ② 当面のハード整備は、現在の河川整備計画の整備メニューを着実に進めていく。

また、第1回（11月7日）及び第2回（12月2日）で検討・確認した短期的課題と第3回での意見を踏まえ、当検討会における提言（案）について議論した。

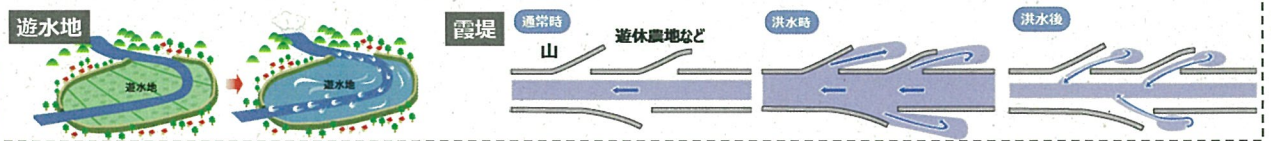
### <提言の骨子>

#### （短期的取組）

- ① 堤防強化対策（堤防舗装、堤防維持管理強化、水防体制強化）
- ② バックウォーター対策（樹木伐採・河道掘削の重点化）
- ③ 河川情報の発信強化（水位計・河川監視カメラ）
- ④ 浸水想定区域に関する住民理解の促進（浸水深表示板の設置等）
- ⑤ ダム放流に関する安全・避難対策（流入予測システム、既存ダムの洪水調節機能強化）

#### （中長期的取組）

- ⑥ 現河川整備計画メニューの着実な整備、流域貯留施設（遊水地、霞堤等）の検討



## 5 主な意見

- ・ 遊水地や霞堤以外にも、輪中堤や地盤嵩上げ等も有効。幅広に検討すべき。
- ・ 遊水地や霞堤の検討は必要だが、土地利用の規制も重要。中長期的には、危険な箇所にはなるべく居住させないような取組も検討すべき。
- ・ 内水氾濫も懸念されることから、市町村とも連携するなど多面的に検討すべき。例えば、下水道設備の更新時に規模を大きなものにするなども一つの選択肢。
- ・ 大規模な治水施設（遊水地等）を整備しても絶対に安心ということはない。住民に誤解を与えないよう取り組むべき。
- ・ 野球場や運動場等を整備する際、敷地の高さを低く造るとか透水性を高くするなど貯留機能を持たせる取組を検討することも大事。
- ・ 異常時に施設（排水機場等）がきちんと機能を発現できるよう、日常の維持点検も重要。
- ・ 既存の施設（水路等も含め）を最大限活用できる準備をしておくことも重要。

## 6 今後の予定

第3回での議論を踏まえ、水防対策に関する最終的な提言を年度末までにとりまとめる予定である。